

新年次始動

158名入学

一年目の新入生



発行所
網走南ヶ丘高校
報道局
発行責任者
歌丸 昊成

新入局員募集中

報道局新聞部門は4階新聞局室にて活動中
・新聞を読んでいない
・作文が苦手
そんな人も大歓迎



4月8日本校体育館にて第76回目の入学式がとり行われた。報道局は、新型コロナウイルスによる規制が昨年よりも緩和された入学式取材をした。さらに、1年次主任である細川先生にお話を伺い、これから高校生活を送る上で、大切な考えを得ることが出来た。

各場面で規制緩和

コロナ禍以前の入学式に

理想の年次は今年度、教員生活で6回目、南高でも初めて担任をもつという細川先生。細川先生は「卒業したあとも集まりたいと思える年次」を目指したいと話す。加えて、相手のことを考え、言動に気を遣うなど、人に優しくすることを心掛けて、良好な人間関係を築いてほしい。

「目的意識のある生活を」

1年次主任細川泰男先生

とも教えていただいた。充実した3年間のために日常生活では、「南高で何を学び、身に付けるのか。また自分は何をしに南高に入学したのか」を常に自身に問い続け、目的意識をもって充実した3年間を過ごしてほしいと語った。勉強面では、「勉強で高校デビューするくらい、意思を持っていてほしい」と自身の考えを述べたうえで、「どうせできない」

昨年度からの変化
昨年とは異なり、保護者の人数制限がなくなった今年度の入学式には、両親のみではなく兄弟・祖父母などの参加もみられた。また、マスクの着用義務がなくなったこととから、約半数の生徒が素顔を出して式に参加していた。入場の際にも規制の緩和がみられ、3年間続いてきたCD音楽での入場から、本校吹奏楽局による演奏に合わせた入場が可能となった。さらに、校歌披露についても入場と同様にCD音声ではなく、吹奏楽局の演奏に合わせた野球部員と陸上競技部員の合唱による紹介となった。従来通りの形で入学式を迎えた158名の新入生。ぜひ南高で有意義な3年間を過ごしてほしい。

南高を清潔に

正しいごみの分別を

紙ごみ・埋め立てごみ 区別難解

南高には、網走市外から通学する生徒が多く在籍している。市外から来た生徒が苦労することの1つが「ごみの分別」だ。市によって「ごみの分別」の仕方が異なるため、困惑している生徒をたびたび見かける。そこで報道局は、実際にゴミステーションを取材し、多くの生徒が分別を間違えるごみや、ごみ箱の正しい配置場所を知ることが出来た。

ごみ箱の配置場所

各教室には生ごみ・紙ごみ・埋め立てごみ用の3つのごみ箱が設置されている。飲食の際に発生する、プラスチックごみ・ペットボトル・カンなどは各階の女子トイレの近くのごみ箱に捨てること出来る。各教室のごみは、掃除当番が週に1、2回生徒会室前の大きなゴミ箱に捨てに行く。プラごみ、ペットボトル、カンのごみ箱

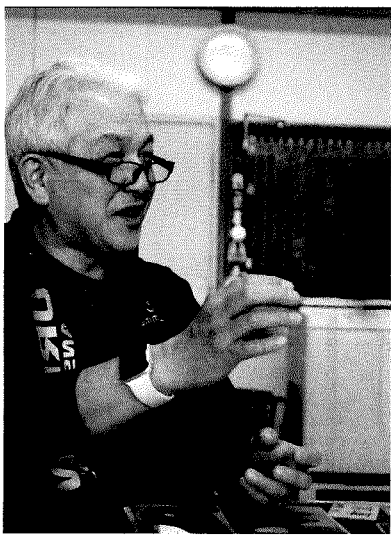


▲プラごみ、ペットボトル、カンのごみ箱

て初めからあきらめるのではなく、意欲的に学ぶことで大きく成長すること

が出来ると信じて学業に励むことを勧めた。

間違えやすいごみ
報道局が約3週間、生徒



細川泰男先生

1Aの担任で1年次主任
担当教科は理科・専門は化学

生徒会室前のごみ箱のそばには先生がおおり、分別の教え、分別しなくても優しく教える、分別しなくても優しく教える、分別しなくても優しく教える。他にも分別間違いを防ぐために、保健委員会が分別ポスターを作り、ごみ箱に貼っているなどの努力をしていて、今一度全校生徒にも是非見てみてほしい。



▲生徒会室前のごみ箱

会室前で掃除当番がごみを捨てに来る様子を観察している。特定のごみについて分別間違いが多いことがわかった。1つは、紙ごみと埋め立てごみである。小さな紙ごみを埋め立てごみだと思ってしまうケースが非常に多いが、どんなに小さくても紙ごみは紙ごみである。もう1つは、付箋だ。付箋はのりがついていて、埋め立てごみだと思ってしまう人が多いが、こちらも紙ごみである。



▲ごみ箱の分別ポスター（教室）